ForestForce
Innovation & Renovation
Creating the Future of Forestry

forestforce.co.jp
林業イノベーション型
地方創生エネルギー事業

Smart 5F Innovation
～ 世代を超え なお そこにあるもの ～

Company Profile

What Can We Do For This Planet?

この星のために、何をなすべきか。

ForestForce
Innovation & Renovation
Creating the Future of Forestry

緑の惑星・地球を守る。

── SDGs達成を目指して ──

何千年もの間、地球は、人間の数々の所業を懐深く受けとめてくれていましたが、
その許容もいよいよ限界を迎えています。

地球がこれからも人類や動植物が健康に生存できる星として存続し続けるためには、
一刻も早く脱炭素社会を構築しなくてはなりません。
私たちに残された時間は、あとわずかなのです。

この緑の惑星・地球を守りたい。
そんな想いを胸に、私たちはForestForceを起ち上げました。

ForestForceは、林業とバイオマス発電事業を
2大柱として展開する企業グループ。

林業事業とエネルギー事業を融合させ、
地域内で富を循環させる「エネルギーの森」構想を実現する。
それにより、さまざまな地域課題を解決するとともに、
持続可能な資源循環型経済を構築する。

それが、私たちForestForceの使命です。

ForestForce
Innovation & Renovation
Creating the Future of Forestry

林業
×
エネルギー事業
＝
持続可能な資源循環型経済の構築

Mission

当社林業・再生可能エネルギー事業の使命

**2050年カーボンニュートラルを見据えた
グリーン成長戦略の一翼を担うべく、
SDGs×ESG時代に相応しい新たな林業、
およびエネルギー事業の創造をつうじて、
持続可能な資源循環型経済の構築に貢献する。**

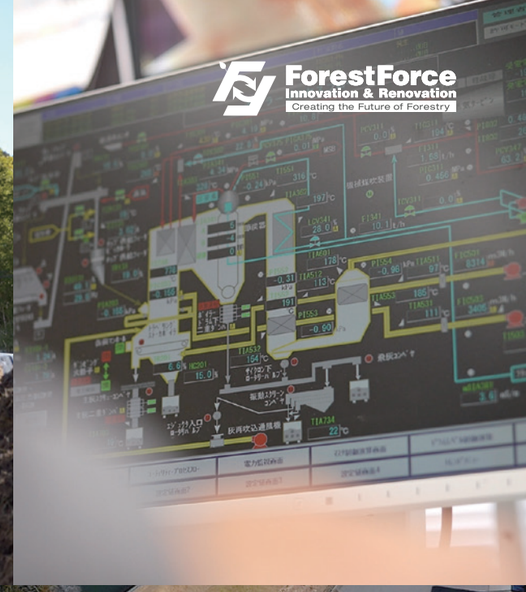
Vision

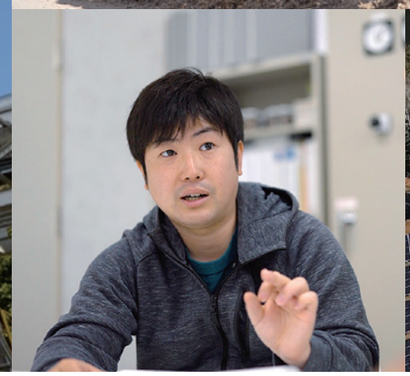
当社林業・再生可能エネルギーの目指す未来
～林業イノベーション型地方創生エネルギー事業「エネルギーの森構想」～

**林業事業とエネルギー事業を融合させ、
地域内で富を循環させる「エネルギーの森構想」を実現する一翼を担う。**

- 国内木質バイオマスを用いた発電事業の自立化と、
  木質バイオマス燃料の供給元としての森林の持続可能性確保の両立
- 林業の成長産業化を目標としたサステナビリティ・トランスフォーメーション（SX&フォレストテック）、林業イノベーション&山林リノベーション事業の推進
- バイオマスによる資源循環型経済（サーキュラーエコノミー）モデルの構築・実現

エネルギー事業





地域の未利用森林資源を主たる燃料とした、正真正銘のサーキュラーエコノミーを実現する。

我々がバイオマス発電事業を行う理由。それは、大きくわけて2つあります。いずれ枯渇するであろう化石燃料。産油国への過度な依存。原子力発電の危うさを再認識させることとなった福島原発事故。こうしたエネルギー問題の解決のために少しでも貢献したい。2050カーボンニュートラルを達成し、脱炭素社会構築の一翼を担いたい。そう強く感じたのが、1つめの理由です。

さらに、もうひとつ、大きな理由があります。我が国は、化石燃料という地下資源には恵まれてはいないものの、森林資源という地上資源は豊富にあります。それなのに、衰退する一途である日本の林業の現状を見過ごすわけにはいかないと感じたからです。

1960年代の木材輸入の自由化により、安価な外国産材が市場を席巻。それに対抗しようにも、担い手の高齢化、人手不足などにより、生産性の改善が進まず、じりじりと衰退。日本の林業は負のスパイラルから抜け出せず、今では手入れがされていない荒廃した森林が日本中で増加しています。

これらの問題解決の一助となりうるのが、バイオマス発電なのです。建材などとして利用できずに廃棄されていた未利用材を、バイオマス発電所の燃料として市場価値をつけて買い取り、発電する。無価値物を価値化する。それにより、林業事業者の収益性の向上に寄与し、地域林業を下支えする。さらに、地域雇用を創出し、森林の多面的機能を維持する。

「バイオマス発電事業によって、日本の林業再生の一翼を担う」。私たちは、そんな想いと志を胸に、2015年、「バイオマスパワーテクノロジーズ」を設立しました。以来、国内の未利用材を主たる燃料とした、正真正銘のサーキュラーエコノミー、すなわち、地域内資源循環型ビジネスモデルとして発電事業を展開しています。

当社事業とSDGsとの関連

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- 7 エネルギー — 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 8 成長・雇用 — 8 働きがいも 経済成長も
- 9 イノベーション — 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう
- 11 都市 — 11 住み続けられる まちづくりを
- 12 生産・消費 — 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動 — 13 気候変動に 具体的な対策を
- 15 陸上資源 — 15 陸の豊かさも 守ろう
- 17 実施手段 — 17 パートナーシップで 目標を達成しよう

プラント設備情報

設備名称	バイオマスパワーテクノロジーズ松阪木質バイオマス発電所
設置場所	三重県松阪市小片野町1790番地1他
発電端出力	1,990kW
稼働実績	345日（8,280h）　稼働率94.5%　※2021年3月期稼働実績
年間発電量	16,611,890kWh（約4,760世帯分相当）
運転開始	商業運転開始 2018年（平成30年）1月1日　※商業運転開始ベースで国内一号機
プラント設備	株式会社タクマ（兵庫県尼崎市）製 木質燃料焚きニューマチックスプレッダ式逆走トラベリングストーカーボイラー および抽気復水タービン発電設備等による直接燃焼発電プラント（空冷式） 国際紙パルプ商事株式会社製　バイオマス発電所運転支援システム「BM ecomo」

動画で見るForestForce

企業紹介動画

バイオマス発電所運転支援システム「BM ecomo」について

林業事業紹介動画

林業

日本の新しい林業のかたち「スマート林業」をデザインしていく。

私たちは、新たなチャレンジとして、2020年に林業事業を開始しました。エネルギー事業者である我々自身が、従来にはない手法や考え方を駆使して、持続可能な新たなスマート林業を創りあげていくのです。なぜ、バイオマス発電事業者が林業に参入するのか。それは、危機に貧している日本の林業を再生するためには、イノベーション、まさしく、川上から川下までを一気通貫した創造的破壊が必要だと感じたから。そして、そのために、「自ら手がけなくてはいけない」という使命を感じたから。

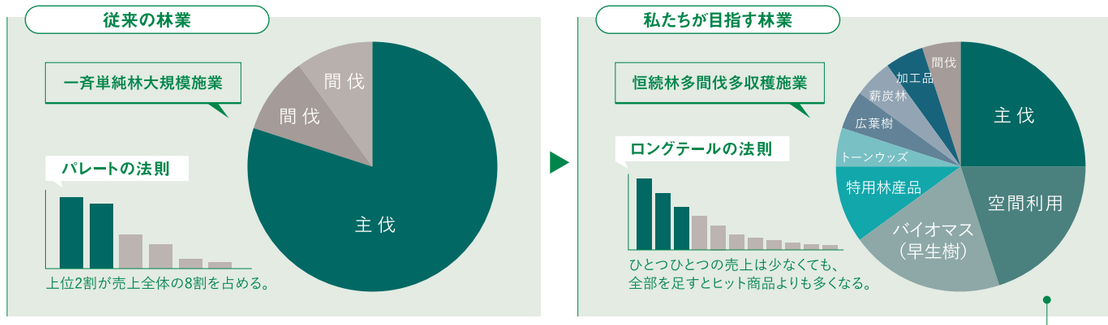
常識にとらわれない大胆な発想の転換、強い実行力を背景としたスピーディーな展開により、森林経営のモデルケースとなっていく。

そして、衰退の一途を辿る日本の林業に革新をもたらし、成長産業の一翼を担っていく。林業事業とエネルギー事業を融合させ、地域内で富を循環させる「エネルギーの森」構想を実現する。

SDGs・ESG時代に相応しい新たな林業・エネルギー事業の創造をつうじて、持続可能な資源循環型経済の構築に貢献する。我々は今、そのための大きな一歩を踏み出しはじめています。

恒続林多間伐多収穫施業

私たちが新しく始めようとしている林業は、従来の林業とは大きく異なります。



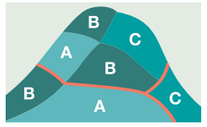
従来のようにスギやヒノキだけを植えるのではなく、自然本来の力を利用し、多様な種の木を植えることで収益構造を変えていきます。

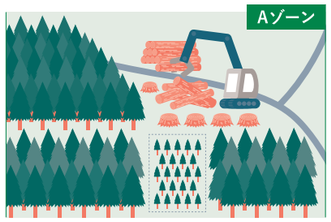
施業五原則

自然本来の力、生態系サービスを最大限活用した持続性の高い恒続林を目標に、以下の「施業五原則」に則って林業を展開します。

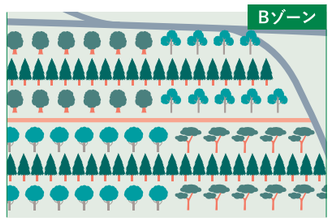
ゾーニング

森林を適切に「ゾーニング」し、多様な空間利用を図ります。数種を大量生産する林業に拘らず、少量でも多品種を生産していきます。そして人手をしっかりかけるところと自然に任せるところ、多種共存による木材生産の森、面的な森林利用から空間的な森林利用へのシフトなど、どのような形が望ましいかを深く考えて森に関わっていきます。

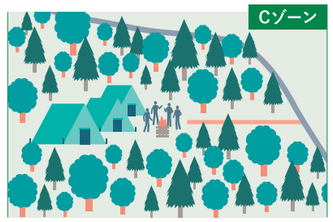




スギ・ヒノキなどの主材をしっかり管理するゾーン。



早生樹・有用広葉樹など、多様な種で構成するゾーン。



高齢林化を目標とし、空間利用も図るエリア。

これらを徹底的に行って森林経営にイノベーションを起こし、日本林業再生の一翼を担う。それが私たちの目標です。